

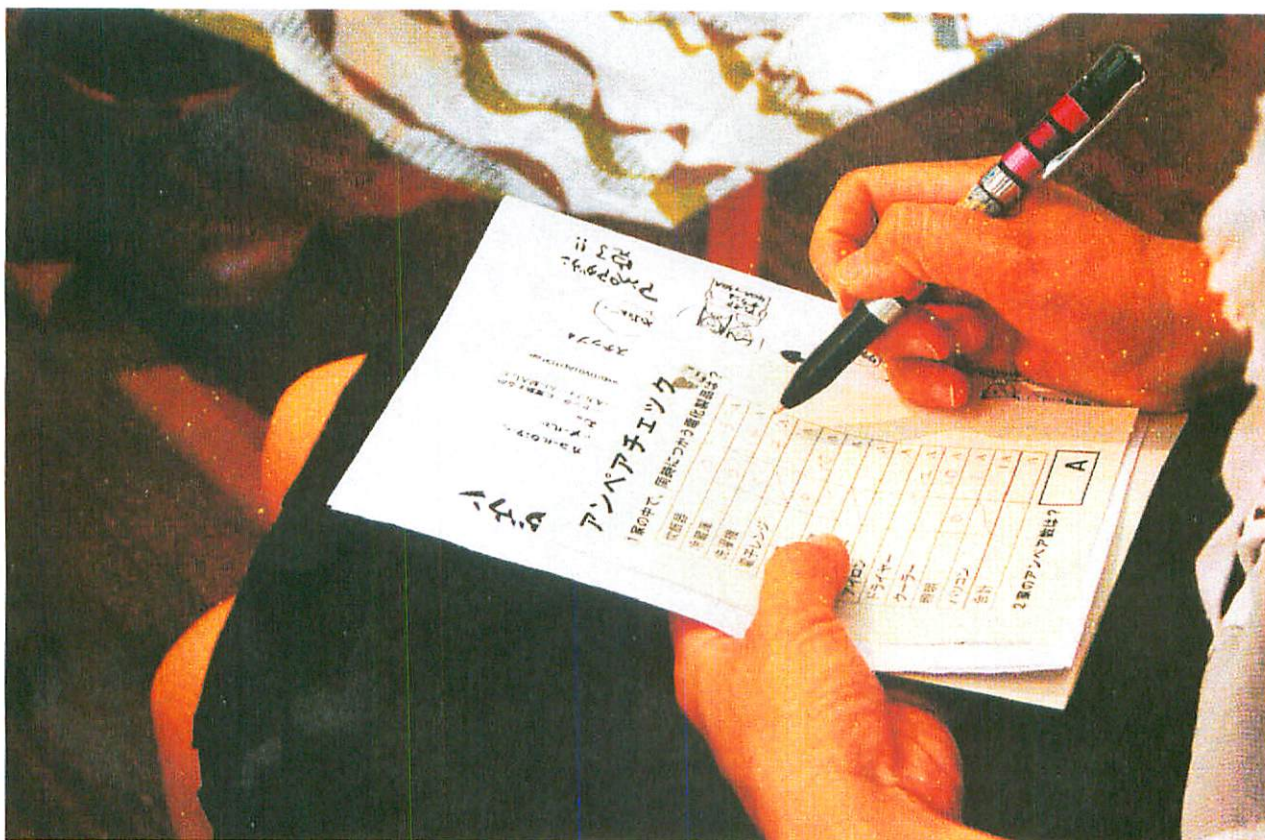
Web daily Sannichi Evening

2011 / 7 / 2 sat

contents

| | |
|--------------|---|
| 「頑張れ日本」合言葉に | 3 |
| 電力使用制限令 内容は? | 4 |
| 土日操業がスタート | 6 |
| 海老蔵さんが舞台復帰 | 6 |

発行 山梨日日新聞社(甲府市) Email henshu@sannichi.co.jp TEL.055(231)3000



〇〇して
みました

節電の夏に アンペアダウン

同時に使う電化製品から
アンペア数を計算するア
ンペアチェックに挑戦

東日本大震災に伴う福島第1原子力発電所の事故で、節電を強いられるこの夏。エアコンから扇風機への切り替え、スーパークールビス、緑のカーテン…。さまざま

な方法で節電に取り組む中、「アンペアダウン」なる言葉が耳に入った。プレーカーを取り換えるだけで、使用量に加え、料金も抑えられるという。甲府市内で開かれ

た「アンペアダウン」のワークショップに参加してみた。

2面へ



アンペアチェックの結果を見せ合う参加者



アンペアダウンについて説明するNGO「ナマケモノ倶楽部」事務局の馬場直子さん

家族で協力「引き算、挑戦」

ワークショップ会場となった甲府市丸の内1丁目にあるカフェ・パールスロー。オーガニックコーヒーやフェアトレード商品が味わえる店内に入ると、すでに参加者約20人が座っていた。

「それでは始めましょうか」。講師を務めるNGO「ナマケモノ倶楽部」事務局の馬場直子さんの合図でワークショップがスタート。スローライフを提唱する同NGOの紹介の後、具体的なアンペアダウンの説明が始まった。

家庭では一般的に電気容量が10～60㍉の7通りある「従量電灯B」で契約。電気を使った分だけ料金を払う点は変わらないが、基本料金は10㍉下げると毎月273円、年間で3276円安くなる。格好の節約術だ。

ただ、自宅の電気の使用量や、どんなものに電気を使っているかが分からないと、下げられるかどうか判断できない。調べるために、アンペアチェックシートが配られた。電化製品すべてではなく、同時に使う電

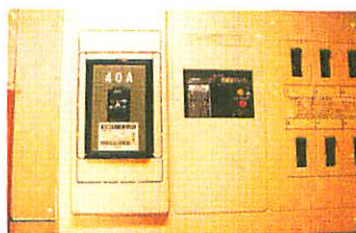
化製品のアンペアを足していくのがポイントだ。

まずは1日中つけっぱなしの冷蔵庫(1・4㍉)に丸。照明、パソコン(各1㍉)にも丸印。「朝、ご飯を炊いている間に洗濯機回すから」「でもうちは掃除機やめたよ」。隣り合わせになった主婦の声が聞こえてくる。

「やっぱりピークはご飯時か」。炊飯器(13㍉)か電子レンジ(12㍉)を使う。でも、風呂上がりもドライヤー(12㍉)を使うし…。これらの電化製品はアンペアが1桁多いことに驚く。

「熱が出る製品は電気を使う量が多いんです」と馬場さん。参加者の一人は「土鍋でご飯を炊いて電気を抑えている」と教えてくれた。

アンペアダウンの方法は、いたって簡単。ブレーカーを変えてもらうだけ。インターネットか電話で東京電力に申し込み、契約容量が40㍉なら30㍉など下のランクに下げてもらえばいい。しかも無料。電気使用量



家庭のブレーカー

がオーバーすればブレーカーが落ちるだけ。

「ブレーカーは間違いがないよう、10㍉なら赤色、15㍉なら桃色。色も変わってオシャレも楽しめます」と話す馬場さんの言葉に、会場の雰囲気は一気に和んだ。

マイバッグ、マイ箸、水筒を持ち歩くなど、これまでの節電策はいずれも個人単位での取り組み。「でも、アンペアダウンは家族単位」と馬場さんは言う。「コミュニケーションが希薄になる中、アンペアを制限すれば家族で気遣いながら協力するようになります」

大震災で大切さに気付いた人も多い家族の絆。アンペアの「引き算」は、絆を深めるのにも一役買いそうだ。

〈雨宮 悠希〉